

和田原遺跡群
下原遺跡

—事務所兼用住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2022.3
小諸市教育委員会



例言

- 1 本書は事務所兼用住宅建設に伴う和田原遺跡群下原遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本発掘調査は事業主より委託を受け、小諸市教育委員会が実施した。
- 3 本書の作成・編集は、高橋陽一が行った。
- 4 遺物実測、遺物写真撮影は、株式会社アルカに委託した。
- 5 本書に掲載した地図は小諸市発行の都市計画基本図を使用した。
- 6 本書及び出土遺物は小諸市教育委員会の責任下に保管されている。

凡例

- 1 遺構の略称
S B—竪穴建物址 S T—掘立柱建物址 S K—土坑址 S X—柵列址
- 2 插図の縮尺
調査全体図—1/200 各遺構平面図—1/80 土器—1/4 白玉—1/1 石製品—1/3
- 3 出土土器の法量は、口径、器高、底径の順に記載し、() は現在値、<>は推定値を示す。単位はcmである。
- 4 写真図版中では遺物番号を簡略化した。例えば、第 11 図 1 は 11—1 と表す。
- 5 土層の色調は「新版 標準土色帖」による。

本文目次

例言

凡例

目次

第1章 発掘調査の概要	2
第2章 遺跡の地理的・歴史的環境	3
第3章 遺構と遺物	4
第4章 総括	12

写真図版

報告書抄録

奥付

第1章 発掘調査の概要

第1節 調査に至る経緯

和田原遺跡群下原遺跡内において事務所兼用住宅の建設が計画される。令和3年8月17日、事業主より文化財保護法第93条第1項及び文化財保護法施行令第5条第2項の規定に基づく届出が小諸市教育委員会に提出され、県教育委員会に進達。令和3年9月24日に試掘調査を実施したところ、遺構が確認されたため事業主と遺跡保護にかかる協議を行う。結果、遺跡の破壊が免れない範囲について、記録保存を目的とする発掘調査を実施することで決着し、令和3年10月14日に埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結、準備期間を経て令和3年10月25日から発掘調査に着手した。

- 1 遺跡名称 和田原遺跡群下原遺跡（遺跡略号WHS H）
- 2 調査地籍 長野県小諸市大字和田字下原609-1、592-2、591-4
- 3 発掘期間 令和3年10月25日～同年11月9日
- 4 整理期間 令和3年11月9日～令和4年1月31日

第2節 調査体制

- 1 調査受託者 小諸市教育委員会 教育長 山下千鶴子
- 2 事務局 教育次長 富岡昭吾
文化財・生涯学習課長 安藤貴正
文化財・生涯学習係長 小山輝之
文化財・生涯学習係 高橋陽一 土屋敦 土屋千浩 望月博史
- 3 協議調整者 望月博史
- 4 調査担当者 高橋陽一
- 5 発掘作業員 伊藤登造、大和田誠 佐藤光勇 藤岡義正 星野保彦 山口幸子
(ただし、藤岡は3日間、山口は2日間、伊藤、大和田、佐藤は最終日のみ参加。)

第3節 調査日誌抄録

10月25日（月）曇りのち雨

表土剥ぎ開始。作業中に機械が故障し、翌日に延期。

10月26日（火）曇

表土剥ぎ完了。遺構確認作業。

10月27日（水）曇のち晴

遺構掘り下げ開始。

11月8日（月）晴

現場作業終了。器材撤収。

11月9日（火）雨

調査区埋め戻し。整理作業開始。

第2章 遺跡の地理的・歴史的環境

和田原遺跡群下原遺跡は小諸市大字和田字下原地籍に所在する。湧玉川右岸にあり、北東から南西へなだらかに傾斜する地形である。この付近には、秋葉山古墳群や藤塚古墳といった後期古墳、東城や鷺林城といった戦国期の城郭址があり、また、近くの古屋敷地籍付近には現和田地区が形成される前の集落があったと伝えられる。

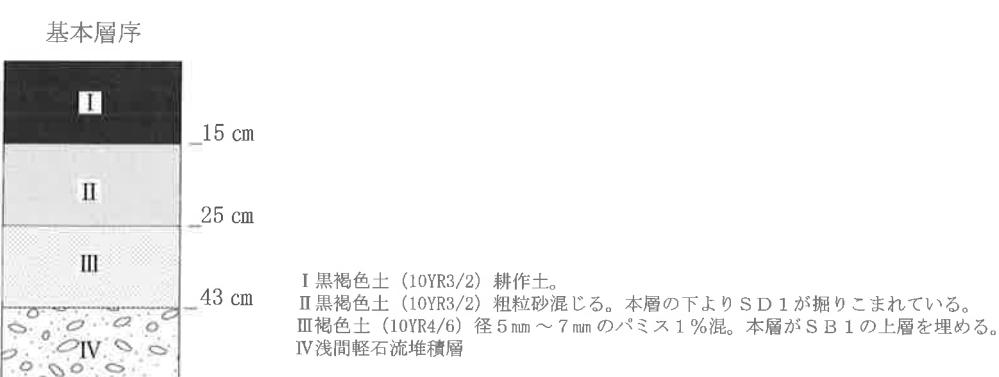
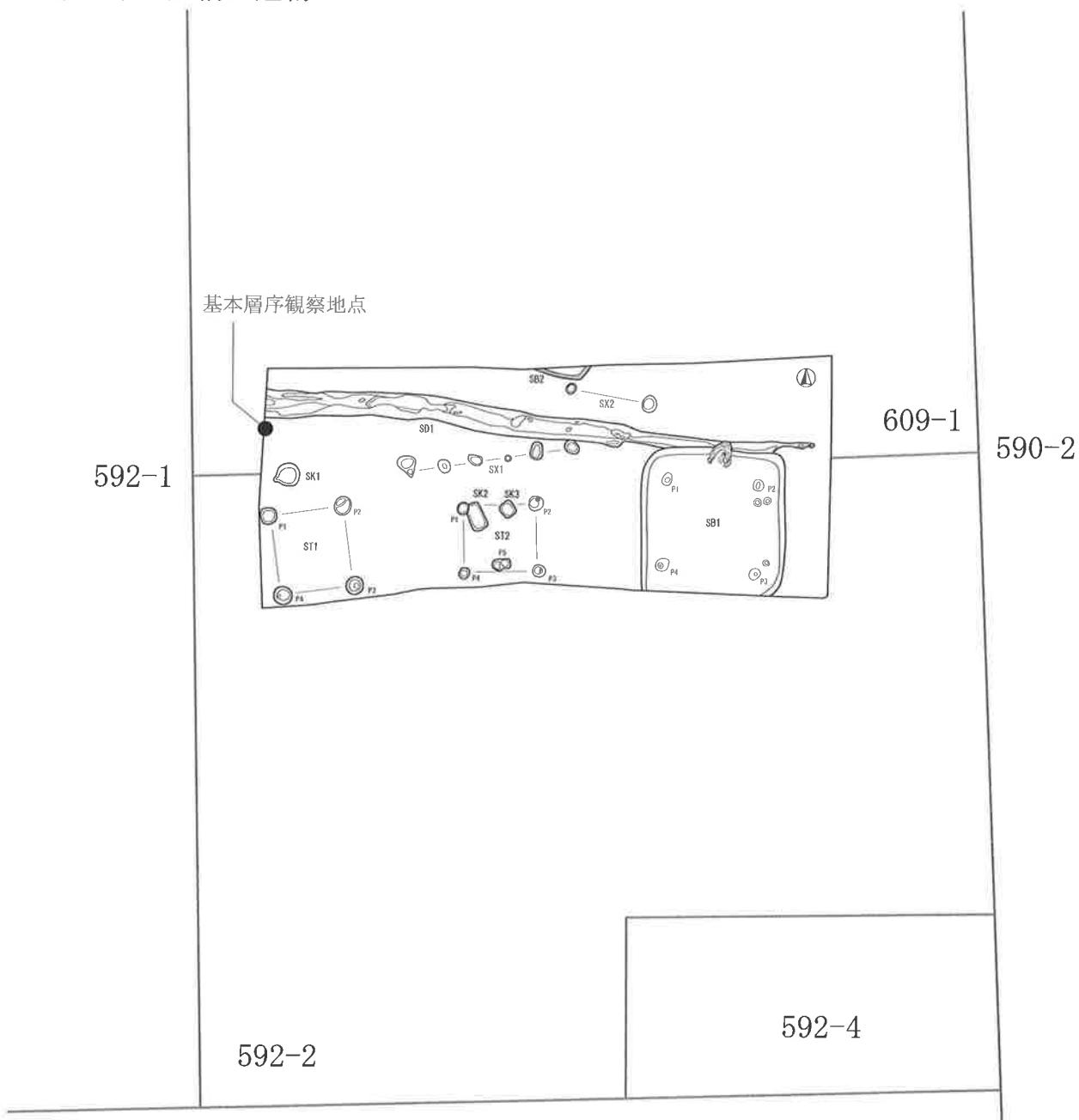
一帯の発掘調査履歴としては、主に今回調査地の南方約300メートル付近に所在する古屋敷遺跡と油久保遺跡の調査がある。古屋敷遺跡では古墳時代後期の住居址2軒、平安時代の住居址1軒、中世の竪穴建物址29軒、74基の土坑、222基のピットが検出されている。油久保遺跡では古墳時前期の住居址2軒、古墳時代後期の住居址9軒、奈良時代の住居址2軒、平安時代の住居址1軒、中世の竪穴建物址2軒、溝址3条、井戸1基、土坑106基が検出されている。

中世の遺構群は前述の言い伝えを証明する可能性があり、注目される。



第1図 和田原遺跡群下原遺跡の位置 (1:5,000)

第3章 遺構と遺物



第2図 調査全体図 (1:200)

1号住居址（S B 1）

規模形状：東西 4.5 m、南北 5 m（南がわずかに調査区外のため推定値）、確認面からの壁 48cm。隅丸方形。重複関係：1号溝にカマド上部を切られる。カマド：北壁中央に構築されている。焚口から煙道までの長さ 70cm、袖間 40cm。カマド内に径 12cm の小ピットがあり支脚の設置坑と思われる。柱穴：円形。深さ平均 40cm。埋土：7 層。出土遺物：土師器、須恵器、白玉、磨石。土師器甌（11-1）はカマド天井頂部、土師器甕（11-5、7）はカマド胴部の崩落土より出土した。白玉（11-9）はカマド右袖手前で出土した。カマド祭祀にかかる祭具と思われる。土師器甕（11-6）は、5 層に圧迫されて潰れた状態で出土した。

時期：古墳時代後期（6世紀後半）

2号住居址（S B 2）

規模形状：規模形状不明。確認面からの壁高 38cm。重複関係：不明。カマド：不明 埋土：3 層。出土遺物：なし。

時期：古墳時代後期（6世紀後半）その他所見：南東隅部のみの検出であり規模等不明な点が多いが、周溝があること、1号住居址と埋土が共通していることなどの点を考慮し、1号住居址と同時期の住居として判断した。

1号掘立柱建物址（S T 1）

規模形状：1間×1間、方形 柱間距離：東西 2.4m、南北 2.5m。ピット数：4 基 出土遺物：なし 時期：不明 その他所見：出土物がなく時代判定が難しい。

2号掘立柱建物址（S T 2）

規模形状：1間×1間、方形 柱間距離：東西 2.3m、南北 2.2m。ピット数：5 基 出土遺物：なし 時期：不明 その他所見：方位が1号住居址と並行するので、1号住居址の附属建物である可能性がある。P 5 は補助柱か。

1号柵列址（S X 1）

規模形状：延長 5.1 m。径 20～50cm 前後、深さ 10～40cm 程度の小ピット 6 基が、東西 1 列に並ぶ。

出土遺物：なし

時期：不明

2号柵列址（S X 2）

規模形状：延長 2.5 m。径 20～50cm 前後、深さ 10～40cm 程度の小ピット 2 基が、東西 1 列に並ぶ。

出土遺物：なし

時期：不明

その他所見：調査区北端での検出であり、調査区外に対になるピットが存在する可能性がある。その場合、掘立柱建物址ということになるが、現状では確認できないため、柵列址とした。

土坑（S K 1、2、3）

その他所見：S K 1 は時期不明。S K 2、3 は方形で S T 2 を切るため、中世以降の土坑である可能性を考えている。なお、用途は 3 基とも不明。

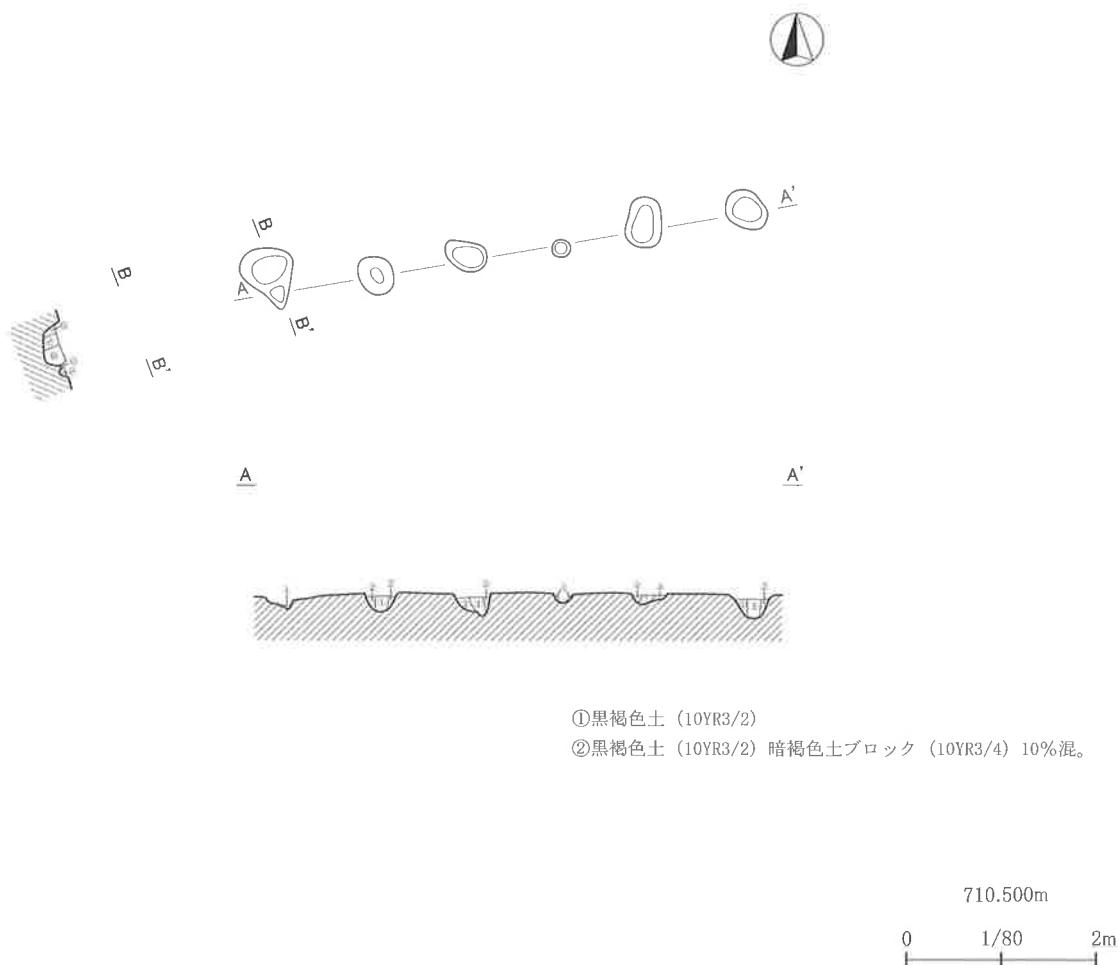
1号溝址（S D 1）

規模：最大幅 70cm、長さ 17 m（検出できた範囲）。最大深度 64 m。底面には強い水の流れで生じたと思われる洞がある。埋土：10 層。水が急激に流れた層と、緩やかに流れた、あるいは浸んで泥が沈殿した層が入り乱れている。

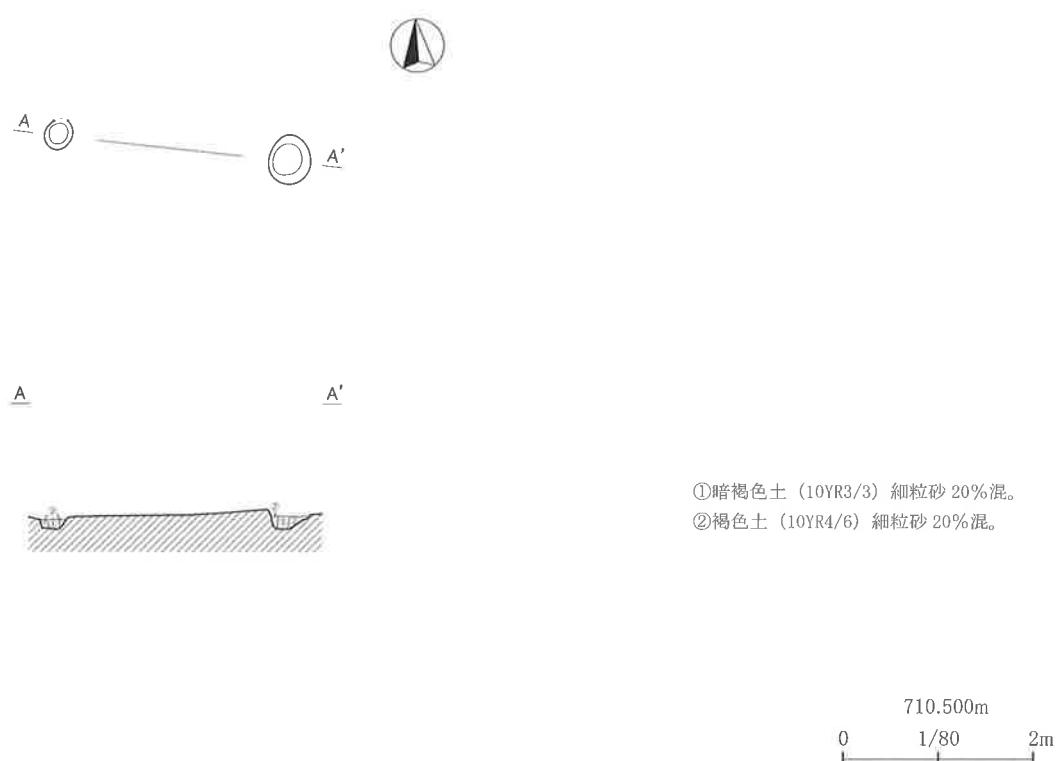
出土遺物：土師器、須恵器、灰釉陶器、内耳。すべて小破片の資料であったため、図示できなかった。破断面は擦られて滑らかになっており、水に流された影響がうかがえる。

時期：内耳は洞に堆積した砂内より出土している。このことから、時期を中世以降に比定する。

その他所見：農業用水路の可能性を考えている。

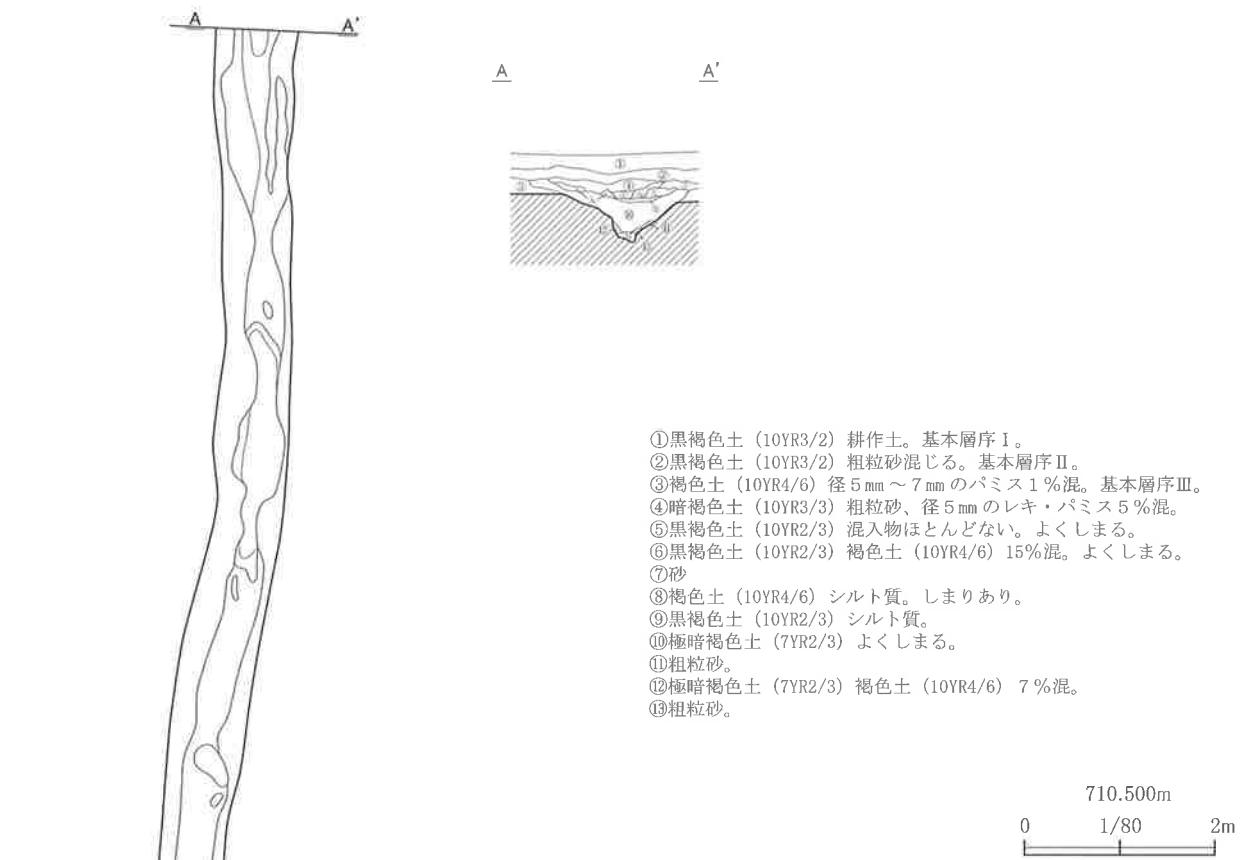


第7図 1号柵列址

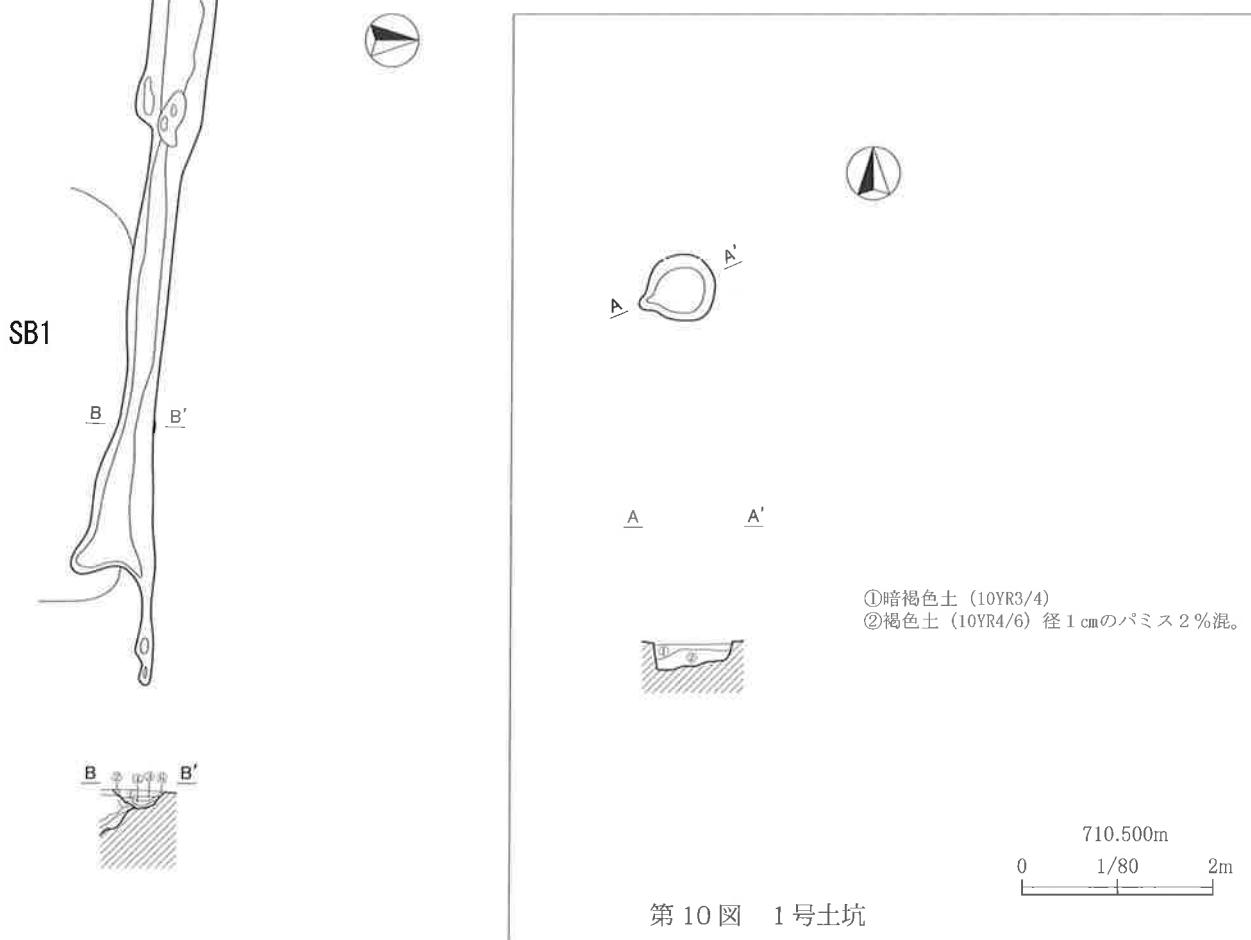


第8図 2号柵列址

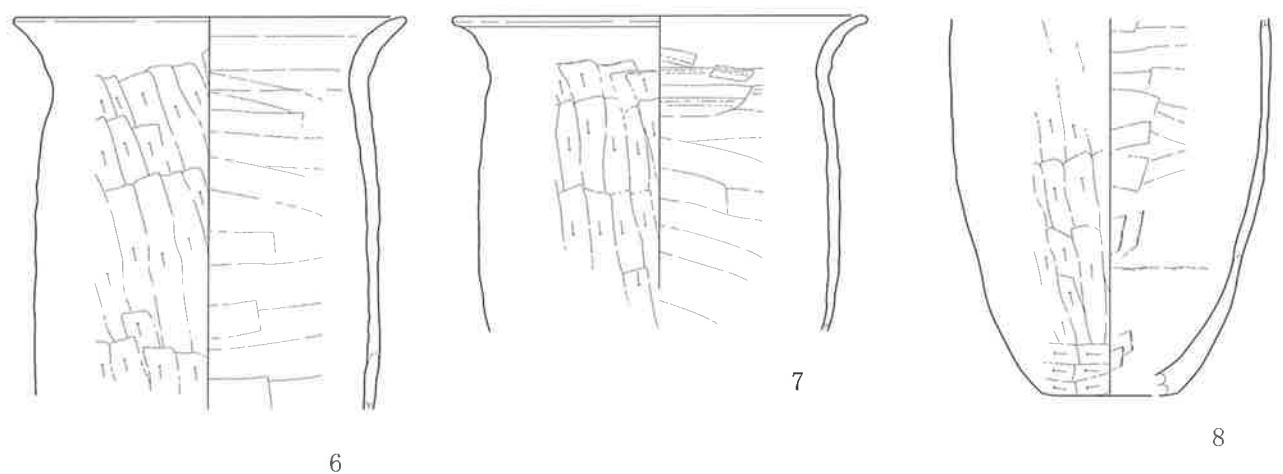
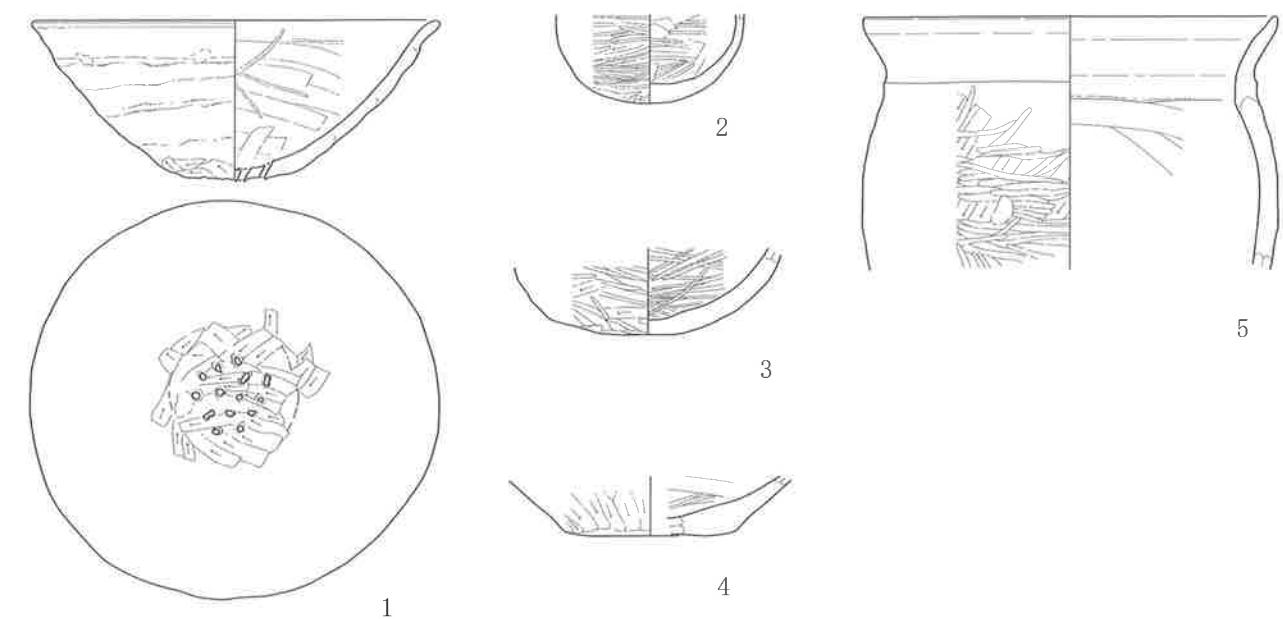
調査区外



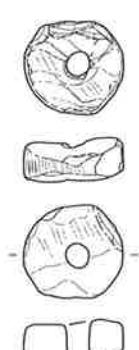
第9図 1号溝址



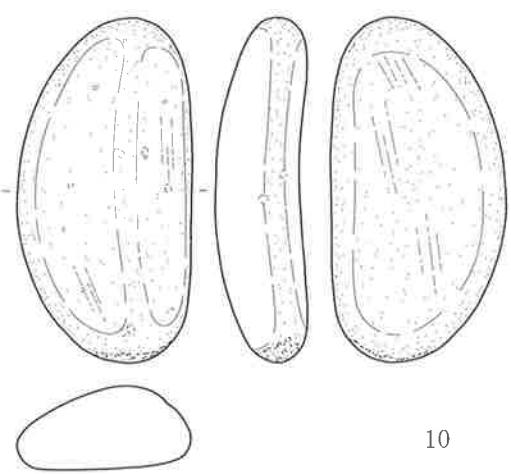
第10図 1号土坑



0 1/4 10cm



0 1/1 3cm



0 1/3 5cm

第 11 図 1 号住居社出土遺物

土器観察表

番号	出土位置	種別	器種	口径	器高	底径	残存	調整	胎土	性成	色調	備考
1 SB-1カマド	土師器	瓶完形		21.6	8.5	6.6	ほぼ完形	口縁ヨコナデ・内面ヘラナデ・外面ナナデ	普通	良好	にぶい黄橙	外面寸十付着
2 SB-1埋土	土師器	芭蕉部		—	(4.6)	丸底	底鈎のみ残存	内面ナナデ・ミガキ・外面ケズリ後ミガキ	粗(石粒含む)	良好	にぶい黄~暗褐色	
3 SB-1埋土	土師器	壺下半		—	(4.8)	丸底	底鈎のみ残存	内面ヘラナデ後ミガキ・外面ケズリ後ミガキ	普通	良好	外: 黄橙/内: 黒色	
4 SB-1埋土	土師器	長脚壺上半部		20.8	(20.8)	—	上半部残存	口縁ヨコナデ・内面ヘラナデ・外面ヘラケズリ	普通	良好	橙色	外面灰付着
5 SB-1カマド	土師器	壺		22.0	(13.5)	—	1/4残存	口縁ヨコナデ・内面ヘラナデ・外面ケズリ後ミガキ	普通	良好	赤褐色/内: 黄橙	
6 SB-1埋土	土師器	壺上半部		22.0	(14.5)	—	口縁1/8残存	口縁ヨコナデ・内面ヘラナデ・外面ヘラケズリ	普通	良好	赤褐色/内: にぶい黄橙	外面灰付着
7 SB-1カマド	土師器	長脚壺下半部		—	(20.0)	<7.0>	底鈎~肩1/10残存	内面ヘラナデ・外面ヘラケズリ	普通	良好	暗灰色	
8 SB-1埋土	土師器	壺底部		—	(3.1)	<9.0>	底鈎1/3残存	内面ヘラナデ・外面ヘラケズリ	普通	良好	黒褐色/内: 暗褐色	

() 現存高 <>推定値

石製品観察表

番号	出土位置	器種	縮尺	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備考
9	SB-1埋土	磨石	1/3	136.6	69.4	36.5	453.83	安山岩	
10	SB-1埋土	臼玉	1/1	12.3	13.1	5.8	1.19	滑石	

第4章 総括

今回の調査では、竪穴住居址2軒、掘立建物址2棟、土坑3基、柵列址2列 溝址1条が検出され、土師器、須恵器、白玉、磨石、灰釉陶器、内耳が出土した。本調査では、湧玉川右岸の台地上に形成された集落の構造や広がり、土地利用の歴史を考えるうえで重要かつ有益な資料を、多く得ることができたと思う。

各遺構の時期であるが、まず、住居址はすべて古墳時代後期のものである。掘立建物址は出土物がなく遺構埋土からも時代判定は難しいが、2号掘立柱建物址については1号住居址と方位がほぼ揃うようなので、例えば倉庫や納屋といった1号住居に附属する建物である可能性が考えられる。1号掘立建物址と1号柵列址については、配置に企画性が窺えるので同時期の遺構である可能性が考えられる。ただ、時期までは確定できなかった。1号土坑、2号柵列址についても同様である。

非常にざっくりとした判断ではあるが、住居址、掘立建物址、土坑（SK2, 5は除く）、柵列址は、中世以降に比定される1号溝址より下層で確認できるので、古代までの集落の構成要素であると考えられる。「第2章 遺跡の地理的・歴史的環境」で述べた通り、本遺跡の南方約300メートル付近に所在する古屋敷遺跡と油久保遺跡で古墳時代後期の集落が見つかっているが、本遺跡で見つかった遺構と時期が一致しており位置も近いことから、おそらく同一の集落ではないかと考えられる。

中世以降の遺構としては1号溝址がある。田切台地上の調査では、たびたび1号溝址のような水路状の溝が発見されることがあるが、これらは自然水利の乏しい田切台地上で耕作を行うにあたり、人力で開削した水路である可能性が考えられる。中世以降、水路を開削して畠地を広げ、居住域を生産域に転換させていった歴史がうかがえる。

以上、現段階で得られている資料から遺跡について考察し、総括としたい。最後に調査にご協力いただいた事業主様、現地調査・成果整理に参加された皆様、ご教示賜った方々に厚く御礼申し上げる。



調査区全体（南西より）



調査区西壁（基本層序観察）



1号住居址（南東より）



1号住居址カマド



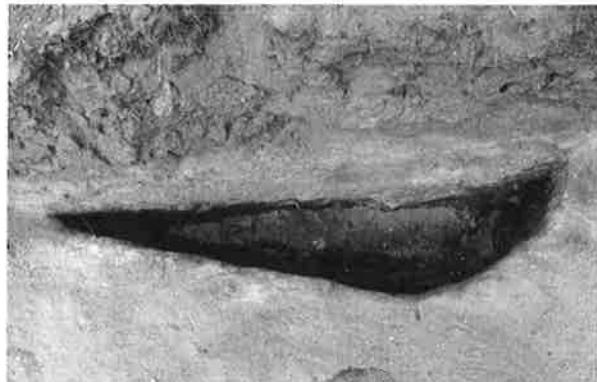
1号住居址遺物（11-6）出土状況



1号住居址遺物（11-10）出土状況



1号住居址カマド遺物（11-1）出土状況



2号住居址（南より）



1号掘立柱建物址（北東より）



2号掘立柱建物址（北東より）



1号柵列址（南西より）



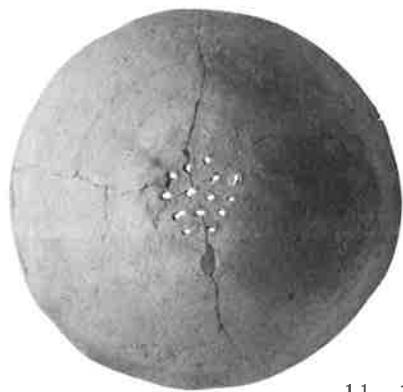
2号柵列址（南より）



1号溝址（東より）



1号溝址と1号住居址の切り合い



11-1



11-2



11-3



11-5



11-4



11-6



11-7



11-8

0 1/4 10cm



11-9



11-10

0 1/1 3cm

0 1/3 5cm

報告書抄録

ふりがな	わだはらいせきぐんしもはらいせき							
書名	和田原遺跡群下原遺跡							
副書名	－事務所兼用住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－							
シリーズ名	小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第39集							
編著者名	高橋陽一							
編集機関	小諸市教育委員会 文化財・生涯学習課							
所在地	〒384-8501 長野県小諸市相生町三丁目3番3号 Tel0267-22-1700(代表)							
発行年月日	2022年(令和4年)3月11日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因	
わだはらいせきぐんし もはらいせき 和田原遺跡群 下原遺跡	ながのけんこも ろしおおあざわ だあざしもはら 長野県小諸 市大字和田 字下原	202088	230	36° 17' 19"	138° 27' 14"	20211025 ～ 20211109	145.60	事務所兼 用住宅建 設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
和田原遺跡群 下原遺跡	集落	古墳時代後期 中世以降	堅穴住居址 2 掘立柱建物址 2 柵列址 2 土坑 3 溝 1	土師器 須恵器 白玉 磨石 灰遊陶器 内耳				
要約	下原遺跡は湧玉川右岸の台地上に展開する和田原遺跡群の一部にあたる。今回の調査では古墳時代後期からの集落遺跡が確認された。調査区は狭小ではあるが周辺遺跡の調査履歴なども合わせることにより、当該地域における古墳時代後期からの土地利用について、総合的に把握することができた。							

小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書 第39集

和田原遺跡群 下原遺跡

－事務所兼用住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

発行日 令和4年3月11日

編集 〒384-8501 長野県小諸市相生町三丁目3番3号
小諸市教育委員会

印刷 〒384-0026 長野県小諸市本町二丁目1番4号
ヨダ印刷サービス株式会社



